

## 世界を知り、日本を知る

### 第三回: 日本から「グローバル人」への一歩

こんにちは！

11 月に入った Санктペテルブルクは少しずつ寒さが増しています。気温は4度からマイナス2度ぐらい。ここ数年は温暖化の影響か、暖かい冬が続いているらしいです。



Санктペテルブルクでもパリ同時テロの被害者への祈りがささげられています。

最近悲しいニュースが続いていますね。10月31日にエジプトを飛び立った Санктペテルブルク行きの飛行機が墜落し、この町は大きな悲しみに包まれました。そしてフランス・パリのテロをうけて、ここでも多くの祈りがささげられています。こういったニュースを聞くと、海外に出ることに躊躇する人も多いかもかもしれません。みなさんは「グローバル人」と聞いたら、どんな人を思い浮かべますか。海外に住んでいる人や世界を舞台に活躍している人ですか？もちろんそういった方たちもそうかもしれませんが、私は日本にいても

世界に目を向けることは可能ですし、「グローバル人」になるためのチャンスはたくさんあると思います。そう気がつけたのは日本語教師になる前、日本で参加していたボランティア活動のおかげです。今回は時間を戻して、日本語教師になるまでのことについてお話ししたいと思います。

#### 日本語教師をめざすきっかけ

大学生だったころ、大学のチューター制度のアルバイトに参加しました。チューター制度とは同じ大学の留学生に週に何度か会い、日本生活の悩みの相談を受けたり日本語を教えたりするアルバイト。そこで私が担当したのは北京から来た2歳年下の女性でした。親しくなるに連れて私はすっかり彼女に魅了されます。彼女の将来の夢は「社長になること」。将来の目標と自分の意見をしっかり持ち、友だちの失敗は気にせず、気さくに自宅に招いて餃子を作ってくれる姿は同世代とは思えませんでした。過去の戦争のことや、母国への思いも語ってくれました。その後就職した会社で出会った中国人の同僚も同じです。そこには日本のような「内と外」といったものはなく、自分と家族、友だちを大切にし、小さいことは気にしない、いわゆる

「大陸の風」のような自由さを感じました。

もちろん文化の違いから時々戸惑うようなこともありました。嫌なことは嫌だときっぱり断ることでお互いにトラブルを避けられるということを学びました。彼女たちは日本社会で活躍しながら、自分のルーツをとて大切にしています。それは人として当然のこと。そして、私にとっても「日本の常識は世界の常識じゃない」という当たり前のことに気づくことができるいい機会となりました。その柔軟さ、多様性は今の日本で必要なことなのかもしれません。またその友だちたちのおかげで日本語を教えることの楽しさも知りました。私も中国語の勉強をはじめ、いつの間にかお互いに言語を教えあうようになり、私は少しずつ日本語教師になるための勉強を始めました。

### ボランティア活動

日本語教師としての初めての活動はボランティアへの参加でした。わたしがお世話になったのは子どもたちに日本語の取り出し授業を行っている団体でした。日本語の取り出し授業とは、学校での授業中に、日本語を母語としない子どもがクラスを出て違う教室で日本語を学ぶ授業のことです。その団体では、ほかに土曜日も学校外で日本語を教えていました。

母国で自由に友だちとコミュニケーションをとっていたのに、親の都合で突然外国で勉強することになった子どもたちへのサポートは、日本ではまだ十分ではありません。支援は地域によって大きく異なりますし、学校がどれだけその問題を重視しているかによっても変わります。「子どもなんだから、自然に上手になる」と思っている方もいるかもしれませんが、耳で自然に言葉を覚えられる限界は一説には小学校中学年ぐらまでだと言われています。諸説ありますが、それ以降は外国語として日本語の勉強を積み上げなければならない場合が多いです。国語はもちろんですが、算数や理科などの文章問題も大きな壁となります。

さらに同級生とのコミュニケーションをとることが難しくなり、大きなストレスに苦しむ子どもも少なくはありません。場合によっては高校進学をあきらめざるを得ない状況も多々あります。

私は平日会社員として働いていたので、土曜日しか活動できませんでしたが、今まで知らなかった子どもたちの環境と日本の現状について深く考えることになりました。その後、仲間たちと日本語が母語ではない子どもたちに居場所を作ろう、世界や自分の町に住んでいる人たちの文化の多様性に気づききっかけ作りをしようということで、「風起房」という団体を立ち上げました。現在は年に2回ですが、文化の多様性を伝える活動が続け



今年の11月の風起房の活動は「日本とアジアの醤油をクイズで比べてみよう！」いろんな醤油があるよ！





デイキャンプでカレーを作りました。  
(地球っ子クラブ2000)

### 海外に関心があるみなさんへ

こうして改めて思い返してみると、日本でこういったボランティア活動に参加し、様々な人と出会ったおかげで海外への一歩を踏み出すことができたと思います。

日本語教師として働いている現在、強く感じているのは日本人と外国人の間にある「日本人のイメージ」のギャップです。最近、外国人学習者の日本語スピーチ

を視聴するとよく目にする内容の一つが「母国では日本人は冷たい、厳しいと言われているがそんなことはなかった」「日本人には内と外があり、本当の気持ちがわからず悩んだ」というものです。また私も直接学生から「日本にいと時々息がつまる」「日本人は本当にえらそう」と言われたこともあります。しかし、現在日本人が抱く「日本のイメージ」はかつてないほど美しく出来上がっているような気がしています。もちろん日本が大好きで絶賛してくれる外国人もたくさんいます。しかし、批判的な声に今の日本はどれだけ真摯に耳を傾けているのかなと感じずにはいられません。もし日本の文化・習慣は世界で一番で他国から学ぶべきものはないと思う人が増えたら……、なんて考えただけで怖くなってしまいます。

埼玉県の在留外国人は東京、大阪、愛知、神奈川について全国第5位。130,092 人が住んでいます(平成 26 年 12 月)。

(参照 <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/keikakutoukei/gaikokujintoroku.html>)

「ボランティア活動にぜひ参加してください」というわけではありません。もしあなたの町や学校、会社に外国にルーツを持つ人がいたら、ぜひ声をかけてみてください。相手を知ろうとするだけでいいと思います。世界はもちろん、あなたの住んでいる埼玉県にも「グローバル人」への扉はたくさんあります。ぜひその手を伸ばしてみてくださいね。